

## 第3回世界水フォーラム

世界で6分の1以上の人々がきれいな水を得られず、毎日6,000人もの子供たちが水にまつわる病気で命を落としています。世界水フォーラムは、世界中の政府・行政機関、企業、市民、NGOなどが一同に会し、21世紀の水問題を語り、解決に向けて行動しようとして1997年から3年に1度開催されています。第3回は、2003年3月16日から23日までの8日間、京都国際会議場を主会場として滋賀、大阪の琵琶湖・淀川流域の3都市を結んで開催されました。今回のフォーラムは、31テーマ、331セッションの分科会を中心とし、閣僚級の国際会議やフェア、フェスティバルも同時に開催され、24,000人以上が参加しました。



HORIBAは、国連環境計画(UNEP)、財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC)、環境省、京都大学大学院地球環境学堂らと共に、分科会「水資源管理のための生態系アプローチ(水資源の管理とモニタリング)」を共催しました。

この分科会では、ナイロビ大学のErick O. Odada教授による基調講演をベースに、内外の研究者からアフリカ、南アメリカ、オーストラリアなどにおける水資源管理の現状報告やパネルディスカッションなどが行われました。これらの討議を通して、豊かできれいな水環境を実現するためには、総合的かつ現実的なアプローチが重要であることが再認識されました。



発表者のお一人であるジンバブエ大学のChris H. D.Magadza教授は , “ Some Speculation on Interaction Between Climate Change on Water Quality in Two African Reservoirs ” と題して , 人間活動や気候変動がジンバブエの湖沼や河川の水質に及ぼす影響を , 広範な実測データと共に紹介されました。なおこの研究には , HORIBAのマルチ水質モニタリングシステム U-20シリーズが活躍しました。



一方 , インテックス大阪 京都みやこメッセ 滋賀県立体育館などでは , 一般市民を対象としたさまざまなイベントや展示会が開催されました。HORIBAは pHメータを使った「おいしい水を計ってみよう! 」のコーナーを設けるなど , 子供たちに科学的な見方 , 考え方を体験してもらいました。23日には , このフォーラムの名誉総裁であられる皇太子殿下・妃殿下が HORIBAのブースに立ち寄られ pHメータの用途や操作について熱心にご下問され , アテンダント一同 緊張と光栄一杯にご説明申し上げました。